

生活科学研究所 19年度活動報告

生活科学研究所は平成19年度に3件の総合研究プロジェクトと、1件の自主研究が行われた。

総合研究プロジェクトは、「食の嗜好性と遺伝子の関係について」、「東京家政大学を核とした北区・板橋区の快適な生活空間を支援するための実践的研究—先進事例を参考とした地域連携・産学官連携プロジェクトの試み」「魚類未利用部及び残渣を利用した“煮こごり並びにペットフードの開発”」の3件が行われた。

「東京家政大学を核とした北区・板橋区の快適な生活空間を支援するための実践的研究—先進事例を参考とした地域連携・産学官連携プロジェクトの試み」では19年度に「園庭からはじめるドイツESDの試み」のシンポジウムを学内で行い、ドイツの学者を2名招聘して盛況に終えた。「東京家政大学を核とした北区・板橋区の快適な生活空間を支援するための実践的研究—先進事例を参考とした地域連携・産学官連携プロジェクトの試み」は他にも、19年に栄養学科中心の学生を主体とする実行委員会を立ち上げ、第1回、第2回の『食リンピック』を開催した。第2回には造形表現学科の学生も参加して第1回の倍の規模で盛り上がった。更に、新潟の農家(エコ・ライス新潟)との産学連携が結ばれ、『白藤プロジェクト』と名付けられた受託研究が行われた。江戸時代の酒米「白藤」の分析や商品の分析と開発が目的であった。更に、栄養学科の学生を中心に田植え、草取り、稲刈り、お酒の仕込みを行い、新潟の中越地震震央地である川口町との台所交流も行ってきた。これらの活動を、日本橋三越前のニコプラザで、『お米の収穫祭』『白藤郷のお披露目』で発表し、又、19年10月には『いたばし産業見本市』で市場調査をかねた販売を行って、それぞれマスコミで紹介された。3月に学内で行われたラディックス主催の『食の祭典』でも白藤プロジェクトと食リンピックの展示も行い活動報告の講演を行った。又、独立行政法人国立病院機構新潟病院並びにエコ・ライス新潟との「災害時及び災害後の非常時における食事制限者の食糧備蓄、食事方法について」の共同研究も行われている。更に、中越地震震央地である川口町地域振興支援センターとの産学連携の依頼が来ている。

総合研究プロジェクトの「魚類未利用部及び残渣を利用した“煮こごり”並びにペットフードの開発」は、独立行政法人水産大学校との共同研究で、鮭の頭や骨、鱗などの未利用部及び残渣や、環境に悪影響を及ぼす、エチゼンクラゲなどを用いて環境に配慮し、健康で美味しく食べる食材の開発に励み、海外での学会発表も行っている。

自主研究は「乳児のささやかな気づき」「東京家政大学が提案する人と環境にやさしいメニューの開発」の2件が採択され、それぞれ成果を上げている。

オープンラボ使用の「汚濁水浄化の研究」は内山アドバンストの共同研究で、東京フォーラムで行われたイノベーションに採択された。

「生物体内(細胞)で挙動変化する遺伝子群の解析(転移遺伝子解析)」は、株式会社ベックスと

の共同研究を行っている。

「魚類未利用部及び残渣を利用した“煮ごり”並びにペットフードの開発」「汚濁水浄化の研究」「生物体内（細胞）で挙動変化する遺伝子群の解析（転移遺伝子解析）」はいたばし産業見本市にも研究成果の発表を行った。

「機能未知有機化合物の機能解明を目指し、化学分析、生体分析、化学評価、生体評価等を共同で行う」は株式会社 VSN との共同研究が行われ、「生物体内（細胞）で機能する低分子化学物質の解析」は株式会社ハイファジェネシスとの共同研究が行われている。

レクチャーフォーラムは、緑苑祭に行われた。水原明人講師による江戸学講座で、『江戸のエコロジー』についてお話しいただいた。この内容は、当研究所がコーディネートしているコア科目の『エコロジー論』に通ずる大変興味深い内容で、参加者からも真剣な質問が沢山出た。

生活を科学する研究・作品コンクールでは首都圏の中学生部門と、全国の高校生部門が行われ、優秀な作品や研究成果の応募があった。中学生部門ではさいたま市立大谷場中学校の「調理法による野菜の変化」が最優秀賞であった。高校生部門の最優秀賞は該当がなく、香川県立多度津水産高等学校の「環境問題啓発アニメーション」が優秀賞となった。